

## [082\_04] 法政研究表紙奥付

<https://hdl.handle.net/2324/1650647>

---

出版情報：法政研究. 82 (4), 2016-03-15. 九州大学法政学会  
バージョン：  
権利関係：

九州大学法政学会

特別教育プログラム(一)

二〇一五年七月一三日(月)

ロー・アンド・プラクティス講演会

「死刑執行後の再審請求事件・飯塚事件を考える」

講師 岩田 務(弁護士(福岡県弁護士会))

二〇一五年七月一八日(土)

「M&Aの実務概論」

講師 鈴木大祐(元ゴールドマンサックス投資銀行部門)

アナリスト・アソシエイト)

二〇一五年一〇月二八日(水)

「公務員弁護士の時代」

講師 岡本 正(内閣府行政刷新会議事務局上席政策調)

査員(二〇〇九〜一一年)・日本組織内弁護士協合理

事・第四部会部長)、伊藤 淳(財務省福岡財務支局

(二〇一〇〜一三年)・金融庁検査局専門検査官(二〇一

三年)・日本組織内弁護士協会九州支部長)、平林敬語

(南さつま市役所総務企画部総務課政策法務官(二〇一三年)・日本組織内弁護士協会第四部会所属)

共催 日本組織内弁護士協会(JIJA)第四部会、九州大学法科大学院

二〇一五年一二月九日(水)

「裁判員経験者と語る」

講師 松尾(裁判員経験者・会社員)、岡崎晴輝(裁判員経験者・法学研究院教授)

司会 豊崎七絵(法学研究院教授)

共催 裁判員交流会インカフェ九州、豊崎ゼミ

二〇一五年一二月一八日(金)

「最近の憲法論議の課題と展望(仮)」

講師 大石 真(京都大学大学院総合生存学館(思修館)教授)

特別教育プログラム(二) LLPセミナー

法学部一年生向法律入門セミナー

講師 石本 恵(弁護士)

村木洋二(福岡地方裁判所裁判官)

安武雄一郎(弁護士)

海瀬弘章(福岡地方裁判所裁判官)

西ヶ谷雄介 (福岡地方検察庁検察官)

講演会

二〇一五年三月一三日(金)

「企業の社会的責任 (CSR) の実践」

講師 白石 理 (アジア太平洋人権情報センター所長・元国際連合人権高等弁務官事務所)

共催 大学院法学研究院リサーチコア「国連グローバル

コンパクトの法学・政治学的研究」九州CSR協会

二〇一五年六月一二日(金)

「Seminar on Standards, IP and Competition Policy」

講師 Thomas Cotter (Professor, University of Min-

nesota Law School) / Steven Van Uytzel (九州大学

大学院法学研究院准教授) / 鈴木將文 (名古屋大学大

学院法学研究科教授) / 田村善之 (北海道大学大学院

法学研究科教授) / 小島立 (九州大学大学院法学研究

院准教授) / Pierre Regibeau (Charles River Associ-

ates) / 真保智行 (関東学院大学経済学部准教授) / 長

岡貞男 (東京経済大学経済学部教授、経済産業研究所

ファカルティフェロー) / 青木玲子 (九州大学副学

長・理事、経済産業研究所ファカルティフェロー)

共催 EUIJ 九州、経済産業研究所 (RIETI)

二〇一五年七月三〇日(木)

「九州大学OBが語る国際機関で働くということ」

講師 江本佳奈子 (国連開発計画 (UNDP) 職員)

共催 EUIJ 九州

二〇一五年一〇月一三日(火)

「History and Basic Principles of International Copyright (国際著作権法の歴史と基本原則)」

講師 Jane C. Ginsburg (Morton L. Janklow Professor of Literary and Artistic Property Law, Columbia Law School)

九洲公法判例研究会

九洲公法判例研究会

・二〇一五年度春期(二〇一五年四月一八日)

「萍憲法研究会の憲法論議と河井弥八——河井弥八日記を手がかりに」

赤坂幸一(九州大学大学院法学研究院准教授)

「知的成果物の多様性を実現するための法の役割——知的成果物の創出、媒介および享受に関係する『コミュニティ』と、そこでの『慣習』や『規範』のあり方

について」

小島 立（九州大学大学院法学研究院准教授）

※科研基盤研究（B）「現代行政の多様な展開と行政訴訟制度改革」との共催

・二〇一五年度夏期（二〇一五年七月四日）

「君が代訴訟と思想・良心の自由」

堀口悟郎（九州産業大学経済学部講師）

「行政行為に対する継続的権利救済に関する研究・序論

——ドイツにおける行政手続の再開法理の形成と発展

——」

児玉弘（佐賀大学経済学部准教授）

・二〇一五年度秋季（二〇一五年一月七日）

「第二次大戦後の連合王国における国籍概念について」

宮内紀子（九州産業大学基礎教育センター講師）

「沖繩返還『密約』文書開示事件上告審判決」

井上禎男（福岡大学法学部准教授）

## 社会法研究会

階を見たか？」

野田進（九州大学）

「労働契約法理と限定正社員——「限定」性をめぐる合意の労働契約法理上の意義」

新屋敷恵美子（山口大学）

「生活保護基準の法的コントロール」

山下慎一（福岡大学）

第四三二回 二〇一五年二月七日（土） 九州大学

「生活保護受給と能力の活用」

黒田有志弥（国立社会保障・人口問題研究所）

「関連諸法との関係からみる生活保護法——近年の改

正・立法の動向と残された課題——」

笠木映里（九州大学）

第四三三回 二〇一五年三月七日（土） 九州大学

「労働判例研究——東芝（うつ病・解雇）事件（最一小判

平二六年三月二四日労働一〇九四号二二頁）」

柳澤旭（山口大学名誉教授）

「労働組合法一条一項および憲法二八条の立法過程に

ついて」

中窪裕也（一橋大学）

「労働者派遣における契約関係をめぐる法的考察」

鄒庭雲 (日本学術振興会外国人特別研究員)

「生活保護ケースワークの法的意義と限界」

丸谷浩介 (佐賀大学)

第四三五回 二〇一五年五月九日(土) 久留米大学福岡

サテライト

「子ども・子育て新制度の立法過程研究」

伊奈川秀和 (元厚労省)

「セクハラ行為を理由とする懲戒と懲戒を理由とする

降格—海遊館事件(最一小判平二七年二月二六日裁判所

ウェブサイトを)」

原審 大阪高判平二六年三月二八日労判一〇九九号三三

頁

一審 大阪地判平二五年九月六日労判一〇九九号五三頁

山下昇 (九州大学)

第四三六回 二〇一五年六月六日(土) 九州大学

「永住外国人と生活保護法の適用(最一小判平二六年

七月一八日判自三八六号七八頁)」

三輪まどか (南山大学)

「労働契約をめぐる「契約外規範」——「労働の場  
(site)」における契約外規範の探求——」

野田進 (九州大学)

第四三七回 二〇一五年七月四日(土) 九州大学

「障害者に対する勤務配慮—阪神バス(本訴)事件

(神戸地尼崎支判平二六年四月二二日労判一〇九六号四

四頁)——」

所浩代 (福岡大学)

「就業規則の最低基準効の歴史的意義と労働契約をめ

ぐる合意——」

新屋敷恵美子 (山口大学)

「ストレス性作業関連疾患に対する使用者の法的責任

——イギリス法を中心に——」

阿部理香 (九州大学大学院)

二〇一五年社会法研究会夏季合宿 二〇一五年八月二七日

(木)、二八日(金)

「賃金額の改定における人事考課制度の適正化につい

て」

畑井清隆 (志學館大学)

「退職労働者のアスベスト健康被害と使用者の団交応

諾義務—最近の労委命令を対象として—」

柳澤旭（山口大学名誉教授）

社会保障法学会秋季大会ミニシンポジウム——社会保険における事業主の責任

「社会保険と事業主の届出義務」

原田啓一郎（駒澤大学）

「整理解雇法理における人選基準の法的意義」

柳澤武（名城大学）

「中国的判例解雇法入門——労働者の非違行為を理由とする解雇」

山下昇（九州大学）

「重疊的雇用関係における安全配慮義務の人的適用範囲——最近の裁判例を素材として」

郷庭雲（日本学術振興会外国人特別研究員）

「大学教員の労働契約関係におけるテニユアと身分保障法理——解雇等雇用終了に関する日米の比較法的研究」

鶴崎新一郎（九州大学）

第四三八回 二〇一五年一〇月三日（土） 久留米大学福岡サテライト

「フランスにおける労働組合および団体交渉の法理」

野田進（九州大学）

「生活保護の財源保障」

上原紀美子（久留米大学）

第四三九回 二〇一五年一月七日（土） 九州大学

「子どもに対する給付の形式と水準」

平部康子（福岡県立大学）

「公的扶助の不正受給防止に関する比較法的考察——ギリスのユニバーサルクレジットにおける情報技術の活用を例として——」

山下慎一（福岡大学）

第四四〇回 二〇一五年二月五日（土） 熊本学園大学

「社会福祉法制における知的障害者の主体性の形成と権利擁護——障害者総合支援法の検討を中心に——」

福島正剛（熊本学園大学）

「老齡基礎年金の構造とデイスアビリティ」

星野秀治（近大姫路大学）

「書面性を欠く労使間合意の法的効力——ドイツ法における様式欠缺の議論を手がかりに——」

西川昇吾（熊本大学大学院博士後期課程三年）

### 九州大学産業法研究会

第六五四回例会 平成二十七年四月一日（土）

(研究報告)

「コーポレートガバナンス・コードの意義とその背景について」

報告者 西山 芳喜 (九州大学)

(判例研究)

東京地判平成二六年九月三〇日金判一四五五号八頁

「いわゆる『株主提案権』を侵害されたという株主の会社ないし取締役に対する損害賠償請求に一部理由がある」とされた事例」

報告者 千手 崇史 (福岡工業大学)

第六五五回例会 平成二七年五月一六日 (土)

(研究報告)

「発行会社倒産時における投資者と債権者の利害調整——不実開示に係る損害賠償請求権の劣後化の是非——」

報告者 藤林 大地 (西南学院大学)

大阪高判平成二六年二月二七日判時二二四三号八二頁

「破産した外国語会話学校の取締役に法令遵守体制構築義務および監視義務違反による第三者責任を認めた事例」

報告者 田中 慎一 (西南学院大学)

第六五六回例会 ※平成二七年六月二七日 (土) ・二八

日 (日) の九州法学会に振替え

第六五七回例会 平成二七年七月一八日 (土)

(研究報告)

「労働法における偽装解散・黙示の労働契約・事業譲渡

法理 会社法の視点から」

報告者 原 弘明 (近畿大学)

(研究報告)

「株主有限責任の原則について」

報告者 前越 俊之 (福岡大学)

第六五八回例会 平成二七年九月一九日 (土)

(判例研究)

神戸地裁尼崎支判平成二七年二月六日金判一四六八号五八頁

「甲株式会社との株式交換によって同社の完全子会社となる乙株式会社の株主の提起した株式交換無効の訴えに理由がある」とされた事例」

報告者 久保 寛展 (福岡大学)

(判例研究)

京都地判平成二七年一月二一日消費者法ニュース一〇三号

二七七頁

「クロレラチラシ配布差止等請求事件」

報告者 泉 日出男（愛媛大学）

第六五九回例会 平成二十七年一月一七日（土）

（判例研究）

最判平成二十七年二月一九日民集六九卷一号二五頁

「①共有株式について権利行使者の指定・通知を欠いた

まま権利が行使された場合における株式会社の合意の効

果、②共有株式についての議決権行使の決定方法」

報告者 横尾 亘（西南学院大学）

（研究報告）

「合資会社の出資履行前退社社員の持分払戻請求権

（最判昭和六十二年一月二二日）の分析——パートナーシッ

プ会計の手法による会計処理の視点から——」

報告者 井上 能孝（福岡大学）

第六六〇回例会 平成二十七年一月二二日（土）

（研究報告）

「閉鎖的な会社における社員の除名」

報告者 小西 みも恵（佐賀大学）

（判例研究）

東京地決平成二四年一月二六日判タ一三七〇号二四五頁

報 雑 「新設分割に対する破産法上の否認権の行使が認めら

れた事例」

報告者 牧 真理子（大分大学）

第六六一回例会 平成二十七年二月一九日（土）

（研究報告）

「民法改正法案と商法・保険法」

報告者 佐野 誠（福岡大学）

（研究報告）

「クレジットカード『翌月一括払』と原因関係——支払

停止・既払金返還を認めるべきか？」

報告者 若色 敦子（熊本大学）

第六六二回例会 平成二八年一月二三日（土）

（研究報告）

「もしも『売渡株式等の取得の無効の訴え』がなかつ

たならば」

報告者 笠原 武朗（九州大学）

## 民 事 法 研 究 会

第二六四回 二〇一五年五月九日（土）

（研究報告）

報告者 鬼頭祐紀（九州大学博士後期課程）



「相殺の序論的考察——いわゆる「相殺の担保的機能」に関する日韓判例比較を端緒に——」

第二六五回 二〇一五年六月一三日（土）

（判例報告）

報告者 田中貴政（九州大学法科大学院三年）

「建物の賃借人に対する建物譲受人からの看板撤去請求と権利濫用（最判平成二五年四月九日）」

第二六六回 二〇一五年七月一八日（土）

（判例報告）

報告者 赤崎裕一（九州大学法科大学院二年）

「主たる債務を相続した保証人による保証債務の弁済と主たる債務の消滅時効（最高裁判平成二五年九月一三日）」

第二六七回 九月一二日（土）

（判例報告）

報告者 高橋千秋（九州大学法科大学院二年）

「承役地の担保不動産競売における買受人に対する通行地役権の主張（最三判平成二五年二月二六日）」

第二六八回 一〇月一七日（土）

（判例報告）

報告者 吉田愛里（九州大学法科大学院二年）

「根保証契約の被保証債権の譲受人の地位（最判平成二四年一二月一四日）」

第二六九回 一二月一四日（土）

（判例報告）

報告者 西田裕太郎（九州大学法科大学院二年）

「相殺適状と受働債権の弁済期の現実の到来の要否（最判平成二五年二月二八日）」

### 民事手続研究会

【研究報告】

平成二七年三月二八日（土）

固有必要的共同訴訟における実体適格と訴訟追行権

鶴田 滋（九州大学（当時））

民事訴訟法二九条の適用効果についての一試論

堀野 出（九州大学）

平成二七年一二月一二日（土）

証拠収集における相手方の義務と事案解明義務

瀨崎 録（西南学院大学）

口頭弁論終結後の承継人に対する既判力の拡張のための承継の要件について

## 福岡民事訴訟判例研究会

池田 愛 (熊本大学)

平成二十七年五月二二日 (金)

共同相続人のうち自己の相続分の全部を譲渡した者と遺産確認の訴えの当事者適格 (最一小判平成二六・二・一四民集六八卷二号一九二頁)

松原 弘信 (熊本大学)

平成二十七年一月二三日 (金)

退去強制命令書に基づき送還・護送中に死亡した外国籍男性について国が作成した送還・護送事故に関する報告書等のいわゆる刑事関係文書に対する証拠保全手続において、文書提出命令を負わない場合に該当しないとして、検証物提示命令の申立てが認められた事例 (東京高決平成二三・三・三一判タ一三七五号二三二頁)

高木 航 (福岡地裁)

平成二十七年七月一七日 (金)

借地借家法三二条一項の規定に基づく賃料増減請求により増減された賃料額の確認を求める訴訟の確定判決の既判力 (最一小判平成二六・九・二五民集六八卷七号六六一頁)

鬼頭 忠広 (福岡地裁)

平成二十七年二月二〇日 (金)

一 株式会社社の解散の訴えにかかる請求を認容する確定判決に対する再審の訴えと上記確定判決の効力を受ける第三者の原告適格

別居中の夫婦間の子の引渡しを命じた審判に基づく間接強制の申立てが却下された事例 (東京高決平成二三・三・二三家月六三卷一二号九二頁)

安井 英俊 (福岡大学)

平成二十七年九月一八日 (金)

二 当事者の一方の請求に対して訴え却下または請求棄却判決を求めるのみの独立当事者参加の申出の適否 (最一小決平成二六・七・一〇判時二二三七号四二頁)

鶴田 滋 (九州大学 (当時))

即時抗告申立書の写しを即時抗告の相手方に送付するなどして相手方に攻撃防御の機会を与えることなく、相手方の申立てに係る文書提出命令を取り消し、同申立てを却下した抗告裁判所の審理手続に違法があるとして破棄

された事例（最一小判平成二三・四・一三民集六五卷三  
号一二九〇頁）

芥川 希斗（福岡地裁）

平成二七年一月一六日（金）

別件訴訟が東京地裁に係属中に同一内容の訴訟が神戸地  
裁に係属した訴えについて民事訴訟法一七条により東京  
地裁への移送が認められた事例（大阪高決平成二六・一  
二・二判時二二四八号五三頁）

川嶋 隆憲（熊本大学）

平成二七年一月二〇日（金）

一 国立大学法人は「独立行政法人等の保有する情報の  
公開に関する法律」の適用を受けること等を考慮すると、  
その保有する情報の公開、職員の秘密保持義務という観  
点においては、民訴法二二〇条四号ニ括弧書きの「国又は  
地方公共団体」に当たるか、または、これが類推適用  
されると解すべきであるとした原決定が維持された例  
二 本件各文書のうち原決定別紙一文書目録記載の各文  
書について、民訴法二二〇条四号ロ所定の文書に該当し  
ないとしてその提出を命じた原決定が維持され、抗告が  
棄却された事例  
三 本件各委員会のヒアリング記録は民訴法二二〇条四

号ロにいう「公務員の職務上の秘密に関する文書」に該  
当し、「その提出により公共の利益を害し、又は公務の  
遂行に著しい支障を生ずるおそれがある」ということも  
できるとした原決定が維持された例

四 ハラスメント苦情申立事件の相手方および学長から  
の事情聴取については、ヒアリング記録およびその一部  
抜粋部分は、民訴法二二〇条四号ロに該当しないと  
原決定が維持された例（最一小決平成二五・一二・一九  
民集六七卷九号一九三八頁）

玉岡 伸也（福岡地裁）

政治研究会

二〇一五年四月一八日（土）

『政治研究』第六二号合評会・総会

二〇一五年五月一六日（土）

「欧州の言語教育政策とシテイズンシップ教育―その  
民主的シテイズンシップ概念―」

報告者 蓮見二郎（九州大学大学院法学研究院准教  
授）

「ボーダースタディーズとは何か…権力と空間の拮抗」

報告者 岩下明裕 (北海道大学スラブ・ユーラシア  
研究センター境界研究ユニット教授)

二〇一五年六月二〇日 (土)

「ロールズ公共的理性論のポリテイクス—ロールズの  
な公共的理性は政治参加の義務を含意するか—」

報告者 大澤津 (北九州市立大学法学部政策科学科  
准教授)

「征服とシヴィリテイルネサンス期のアイルランド  
統治論—」

報告者 木村俊道 (九州大学大学院法学研究院教  
授)

二〇一五年七月一八日 (土)

「学問と民衆の結びつきをめぐる丸山眞男の模索—マ  
ンハイム「自由に浮動するインテリゲンチヤ」を手がか  
りに—」

報告者 塩原光 (九州大学大学院地球社会統合科学  
府博士後期課程)

「一九八〇年代初頭における、天然ガス・パイプライン  
建設をめぐる西側同盟関係—」

報告者 山本健 (西南学院大学法学部国際関係法学  
科准教授)

二〇一五年一〇月一七日 (土)

「複雑な社会と理想の政治—F.A.ハイエクにおける  
「法の支配」と民主主義—」

報告者 阪井遼 (九州大学大学院法学府修士課程)  
“China’s interpretation of the European Integra-  
tion process and its impact on Sino-EU Relations”

報告者 蘇明 (大分大学経済研究科博士後期課程)

二〇一五年一月二一日 (土)

「ウォルター・リッップマンにおけるシヴィリテイルの諸伝  
統—統治の哲学としての公共哲学—」

報告者 細川亮太 (福岡県職員)  
「可謬主義、市場、グローバル化—ポパー哲学の制度  
論的含意をめぐる議論を手がかりとして—」

報告者 施光恒 (九州大学大学院比較社会文化研究  
院准教授)

二〇一五年二月一九日 (土)

「ヒュームにおける宗教批判の政治思想的意義—自由  
と自己尊重—」

報告者 鎌田厚志 (九州大学大学院法学研究院助  
教)

「新自由主義的グローバリゼーションとデモクラシー

報 雜

の行方―ジョージ・オーウェル『動物農場』についての  
考察を手がかりに―

報告者 白川俊介（九州大学大学院比較社会文化研  
究院特別研究者）